

ヴェールを剥がされた ショパン。

即興するショパン、教えるショパン、
恋するショパン、お洒落なショパン、商売上手なショパン。
その矛盾に満ちた素顔が、
さまざまな証言によって明かされる。

——— 青柳いづみこ (ピアニスト・文筆家)

著者アダム・ザモイスキは、当時ショパン本人を支援していたポーランド貴族の末裔。ロンドン在住の歴史家・著述家で、これまでに2冊のショパンと14冊のポーランド史に関する著作がある。本書はショパンを社会、政治、貴族を中心とした人間関係の中でとらえ、ジョルジュ・サンドとの関連も興味深く、珍しい原資料が扱われている好著である。

■目次■

はじめに

- | | |
|----------------|-------------------|
| 第1章 抑制された神童時代 | 第11章 夫婦生活 |
| 第2章 学びの日々 | 第12章 ショパン信仰 |
| 第3章 音楽の天才 | 第13章 愛の終わり |
| 第4章 青春の情熱 | 第14章 陰悪な諍い |
| 第5章 ウィーン | 第15章 ロンドンとスコットランド |
| 第6章 ロマンティックなパリ | 第16章 天の嫉妬 |
| 第7章 流行のピアニスト | 捕遣 |
| 第8章 二番目の恋 | 原註 |
| 第9章 芸術と政治 | 出典 |
| 第10章 すべてを超えた愛 | 訳者あとがき |

訳者：大西直樹 (オオニシ・ナオキ)

国際基督教大学名誉教授(アメリカ文学、アメリカ学専攻)。
● 著者に『ビルグリムファーザーズという神話』(講談社)、
● 『ニューイングランドの宗教と社会』、『エミリア・ディキンソン
アメリジストの記憶』(彩流社)など。訳書に『クラークの手紙』
(北海道出版センター)、D・H・ローレンス著『アメリカ古典文
学研究』(講談社)など。現在、桐朋学園大学音楽学部科
目等履修生。7歳からピアノを始め、現在に至る。

訳者：楠原祥子 (クスハラ・ショウコ)

● ピアニスト、桐朋学園大学音楽学部特任講師。桐朋学園
● 高校音楽科、同大学音楽学部ピアノ専攻卒業。その後
● ポーランドに留学、国立ショパン音楽大学研究過程にてバ
● ルバラ・ヘッセ・ブコフスカクラス修了。日本各地とポーランド
● で演奏活動を行い、ポーランド人ピアニストとの親交が深い。
● ヤン・エキエル校訂のナショナル・エディション『ショパンバ
● ラード』日本語版を翻訳。

人間ショパンの私的な普段の生活はどんなものだったのか、どこのレストランで誰とど
んなメニューを選んだのか、ピアノだけではなく日常に迫ったページは実に新鮮です。
ショパンがまさにその生涯を閉じる時、真夜中の死の床の情景がこれほど克明に綴ら
れたことはなかったはず。ジョルジュ・サンドはいないけれども、彼女の娘ソランジュ
がいて、人間関係の綾を緻密に描き出しています。 —— 「訳者あとがき」より

大西直樹 楠原祥子＝訳
Naoki Oishi Shoko Kusuhara

ショパン

プリンス・オブ・ザ・ロマンティックス

C H O P I N

PRINCE OF THE ROMANTICS

アダム・ザモイスキ 著

Adam Zamoyski

音楽之友社

著者：アダム・ザモイスキ (ADAM ZAMOYSKI)

● ポーランドの大貴族ザモイスキ家の直系として、1949年ニューヨーク市
● に生まれる。イギリスに渡って教育を受け、オックスフォード大学クイーン
●ズカレッジで歴史学を専攻。BBC勤務後、『フィナンシャル・タイムズ』紙、
● 『ヒストリー・トゥデイ』、『タイムズ・リテラリー・サプラメント』に執筆を重ね、
● 1980年に本書の前身『ショパン』を出版する。『パデレフスキ伝』
● (1982年)以後は、『ポーランド最後の国王』(1992)など、ポーランドを中心
● にヨーロッパ史に関わる重要な歴史書10作品を次々に発表し、とり
● わけ2018年の近著『ナポレオン・神話の影の男』は高く評価され、この
● 作品をめぐるシンポジウム、講演などがYoutubeで公表されている。
● 現在ロンドン在住。



ショパン

プリンス・オブ・ザ・ロマンティックス

アダム・ザモイスキ 著 / 大西直樹、楠原祥子 訳

大好評発売中!



音楽之友社

〒162-8716 東京都新宿区神楽坂6-30
TEL.03-3235-2151(営業) FAX.03-3235-2148

A5判・288頁 定価3,960円 (本体3,600円+税10%) 【ISBN】978-4-276-21007-3